

学習支援事業

団体名

子どもたちの未来を創る「学びの部屋」実行委員会

震災後の地域の状況・仮設住宅数等

学校が避難所となり、運動場が支援車両等の駐車場になる。学校の校庭に仮設住宅が建設される。自宅や家族・友人を失った人がいる。

＜取組名＞ ～子どもたちの未来を創る「学びの部屋」実行委員会～

取組概要

実施形態 (該当に○)	自治体単独実施	団体等との連携実施	大学との連携実施	(連携している団体等・大学の名称)
		○	○	実施市町の教育委員会
実施主体・ 場所等	コーディネーター数	ボランティア延べ人数	年間実施日数(回数)	活動場所
	10	453	1835	実施市町の中学校、仮設集会所、公民館等

活動内容

※該当する内容に○

学校支援	学習支援	部活動指導	美化・環境整備	登下校指導	学校行事・その他
					()
学校と地域の 協働学習	復興学習	防災教育	伝統文化・芸能	職業体験・キャリア教育	イベント・行事・その他
					()
放課後等支援	学習支援	体験・交流活動	遊び・スポーツ	児童クラブとの連携	その他
	○				()
家庭教育・ 保護者支援	家庭教育講座	親子参加行事	サロン・相談対応	家庭訪問相談	その他
					()
地域課題に応じた 学習・交流	高齢者支援・世代間交流	心のケア・健康管理	生活再建・地域づくり	地域人材育成	その他
					()

＜取組の内容を具体的に記載＞

被災等により十分な学びの場を失った子どもたち(主として小学生、中学生および高校生を対象)に放課後や週末等の児童・生徒の学習支援を実施し、子どもたちの自学・自習の支援や学習の動機付け等を行う。開催場所は、陸前高田市 4 会場、大船渡市 5 会場、釜石市 3 会場、宮古市 4 会場、住田町 1 会場の全 17 会場。時間は、平日の夕方、日曜日の日中。学習支援相談員が学習上の指導や助言にあたることで、生徒の学習上のつまづきを解消し、学力の向上や学習意欲の向上を図る。生徒の自学・自習を基本とする。分からないところを生徒が質問し、学習支援相談員がそれに答える。また、各市町の教育委員会と年3回ずつ「実行委員会」を行い、実施状況等の情報交換を行う。気仙地区、宮古・釜石地区に分かれて、学習支援相談員を対象に、支援員研修会を実施し、学習支援相談員の支援のスキルアップを図る。



取組の変遷

準備段階

◇被災による課題

- ・被災等により十分な学びの場を失った子どもたちがいた
- ・自宅や家族を失って進学をあきらめる子どもたちがいた

◇住民等からの要望・必要な取組

- ・子どもたちの学習環境の整備
- ・子どもたちが安心して過ごせる環境の整備

体制づくり・取組の実施

◇協力を呼びかけた団体・関係者、役割分担

- ・各地域に学習支援コーディネーターを配置し、各会場の巡回を行う。
- ・教育委員会と連携して、学校への「学びの部屋」開催周知、承諾書の配布等を行っている。

◇取組の充実や課題解決のための工夫

- ・子どもたちが安心して過ごせる場、学習できる場づくりのための学習支援相談員を対象にした支援員研修の実施。
- ・子どもたちの英語の学力向上のための「英語の部屋」の開催。
- ・子どもたちに目が届くような学習支援相談員の配置の工夫。

成果・課題や今後の展望

◇これまでの取組による成果

- ・学習習慣の定着、高校入試合格、受験校のレベルアップ
- ・PTSD等の子どもの落ち着き、表情の豊かさ、コミュニケーション力の向上、不登校の解消、体力の向上
- ・進学を考えるようになる、大学への憧れを持つ、創造力の育ち

◇復興に資する内容としての数値的達成の状況

- ・17会場(宮古市4会場、釜石市3会場、大船渡市5会場、陸前高田市4会場、住田町1会場)設置
- ・参加生徒は、延べ9,502名(宮古市1,705名、釜石市1,734名、大船渡市1,381名、陸前高田市3,974名、住田町708名)
- ・学生ボランティアとして県内の大学生や首都圏等の大学生を延べ453名を派遣

◇課題や今後の展望

- ・仮設住宅居住の長期化
- ・保護者の負担感の増大
- ・被災3年～5年の学力低下(阪神・淡路大震災の教訓)
- ・不登校等の事例の二重表出